



発行所：日本合板商業組合

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-4

TEL：03-5256-9080

<https://www.nichigoshonet/>

e-mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

Japan Plywood Wholesalers Association

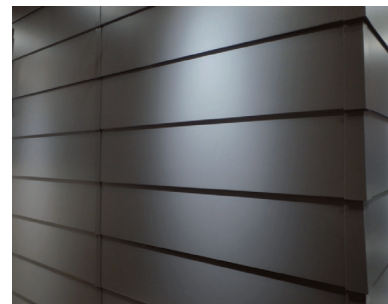
TOPIC 1 | 鋼板価格高騰で金属建材の価格改定相次ぐ

鋼板価格の高騰を背景に、金属系の建材メーカーが相次いで価格改定を発表した。中国経済の回復による需要増などによる鉄鉱石、鋼板価格の高騰が大きな要因だ。

鉄鋼の原材料となる、粉鉱石の1トン当たりの市況価格が2020年7月時点と比べて2倍近くとなるなかで、金属建材の原料となる冷延鋼板の価格(1トン当たり)も高騰している。冷延鋼板の価格は、2020年7月の7万9000円から、2021年7月には13万円にまで上昇しているとみられている。

こうした中で、建材メーカー各社は、相次いで金属建材の価格改定に踏み切った。アイジー工業は、「世界的な薄板鋼板の需要増を背景に、鋼板価格が著しく高騰している。また、原油を原材料とする樹脂原料や物流分野においても、価格上昇傾向が続いている。企業努力のみではコスト増の吸収は困難」と判断し、8月1日の出荷分から、アイジーサイディング全商品(本体と部材)、アイジールーフ

全商品(同)、アイジーヴァンド全商品(同)を対象に、商品価格を17%アップする。ケイミューは、2021年9月1日出荷分から、金属サイディング「はる・一番」の本体および部材、金属屋根材「リコロニ



鋼材価格の高騰により、金属外装材はじめ、金属屋根材、金物など、金属建材の価格改定が相次いでいる。(画像はイメージ)

一、スマートメタル」の本体および部材の価格を20%前後アップする。鋼板価格の高騰が続けば、さらにほかの建材メーカーにも影響が出てくる懸念がある。

鋼材価格の高止まりは今年度下期も続く公算が強い。今年度に入り住宅市場は持ち直しつつあるが、木材と鋼材の資材価格の高騰が市況に影響を与えそうだ。

TOPIC 2 | 蓄電池でリースやポイント還元などの新提案相次ぐ

家庭用蓄電池の普及拡大に向け、メーカーから初期コストを抑えるリースや、再生可能エネルギーの自家消費量に応じたポイント還元などの新提案が相次いでいる。

2020年度の定置用蓄電池の対前年110%と伸長しているが、まだ本格的な普及には至っていないのが実情だ。

その大きな要因はコストだ。一般的な蓄電池の初期コストは設置工事費も合わせると100万円以上と高額である。だが、ここに来て、コストに関する課題の解消を目指す新提案が相次いでいる。

伊藤忠商事と東京センチュリーは合弁会社「IBeeT(アイビート)」を設立、9月から伊藤忠商事が販売する家庭用蓄電池のリースサービス「Beeフラット」を開始する。消費者は同サービスを導入することで、月々の定額料金を支払えば、初期費用無料で蓄電池システム「Smart Star L」

「Smart Star 3」を導入できる。

家庭用蓄電池システムのリースサービスについては、昨秋に四国エネルギーサービスとジャックスも「でんのすけ蓄電池設置サービス」という名称で開始している。

一方で、蓄電池導入後に、ポイント還元の仕組みを活用し、ユーザーに金銭的なメリットを訴求する提案も活発化している。

ネクストエネルギー・アンド・リソースは、8月に発売した家庭用蓄電池「iedenchi-NX Premium」で、ポイントサービスの提供を開始。ポイントはポイント交換サイトを通じて、現金や電子マネーと交換できる。

住宅の脱炭素化を背景に、家庭用蓄電池のさらなる普及が望まれるなかで、今後、リースやポイント還元などの導入を促す新たな提案が広がっていきそうだ。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>